



日本共産党の高橋ちづ子議員は31日の衆院

高橋議員が追及

衆院厚生労働委

追及しました。

高橋氏は、与党と修正案を共同提出した民主党もこれまで、「水際作戦」につながらたため保護申請時の書類提出の義務付けの削除を主張していたことを示し、なぜ削除しないのかと迫りました。提出者の山井和則議員（民主）は「政府は運用を変えないとしている」と答弁。高橋氏は「まるで政府のようだ。質問での指摘はなんだったのか」と批判しました。

厚生労働委員会で、生活保護法改悪案と生活困窮者自立支援法案について、生活保護から締め出す水際作戦と追いつきの道具になると

質問する高橋ちづ子議員
31日、衆院厚生労働委

高橋氏は参考人質疑で、現在でも就労を迫ったり、扶養義務をたてにした受給抑制が横行している実態が出さ

れたことを指摘。「別れた夫や縁を切られた子どもにまで連絡が行くのは困ると保護をあきらめる実態をこれまでに多く見てきた」と述べ、扶養義務者に対する福祉事務所の調査権限の強化を削除するよう主張しました。

さらに、高橋氏は一体で提出された生活困窮者自立支援法案は、生活保護を受けるべき人でもまず自立支援相

談事業に回される危険性があると指摘。榎屋敬悟厚生労働大臣は「自立支援と保護で」しっかりと連携していく」と答えました。

高橋氏は、この法案が、「低賃金でもとりあえず就労」「手当より仕事」など、働きたくても働けない実態を無視して押し付け、生活保護からの追い出しと水際作戦のツールとなると批判しました。